

1-1 日本とその周辺の地震活動（2013年11月～2014年4月）

Seismic Activity in and around Japan (November 2013 –April 2014)

気象庁

Japan Meteorological Agency

今期間、日本とその周辺でM5.0以上の地震は70回、M6.0以上の地震は6回発生した。このうち最大のものは、2013年12月18日にマリアナ諸島で発生したM6.6の地震（本巻「世界の地震活動」の頁参照）であり、次いで大きいものは2013年12月9日に択捉島南東沖で発生したM6.4の地震、及び2014年3月3日に沖縄本島北西沖で発生したM6.4の地震である。また、2011年3月11日に発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」（M9.0、最大震度7、以下「東北地方太平洋沖地震」と呼ぶ）の余震が、前期間に引き続き、岩手県から千葉県北東部にかけての沿岸及びその沖合の広い範囲で発生した。2013年11月～2014年4月のM5.0以上の地震の震央分布を第1図(a)及び(b)に示す。

また、2000年1月～2014年4月の東海から四国にかけての深部低周波地震の震央分布を第1図(c)及び(d)に示す。

主な地震活動は以下のとおりである。

(1) 北海道地方とその周辺の地震活動（本巻「北海道地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2013年12月9日02時24分に択捉島南東沖でM6.4の地震（最大震度2）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は北北西－南南東方向に圧力軸を持つ型である。

(2) 東北地方とその周辺の地震活動（本巻「東北地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

今期間に東北地方太平洋沖地震の余震域で発生したM5.0以上の地震は26回、M5.5以上の地震は8回であった。このうち最大のものは、2013年12月23日15時57分に関東東方沖で発生したM5.9の地震（最大震度1）である。この他、2014年4月3日08時22分に岩手県沿岸南部の深さ64kmでM5.5の地震（最大震度4）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が東西方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した。

(3) 関東・中部地方とその周辺の地震活動（本巻「関東・中部地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

茨城県南部で、2013年11月3日14時25分に深さ63kmでM5.1の地震（最大震度4）、同月10日07時37分に深さ64kmでM5.5の地震（最大震度5弱）、12月21日01時10分に深さ62kmでM5.2の地震（最大震度4）が発生した。これらの地震は、いずれも発震機構が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した。

2014年1月2日22時11分に千葉県東方沖の深さ26kmでM5.0の地震（最大震度3）が発生した。この地震は、発震機構が北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。この地震の震源付近では、この地震を含め、2014年1月にまとまった地震活動がみられた。今回の地震の震源付近では、今回の地震活動と同時期にプレート境界でゆっくりすべりが発生しており（国土地理院、防災科学技術研究所による）、今回の地震活動はゆっくりすべりに伴って発生したものと考えられる。

(4) 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動（本巻「近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2014年3月14日02時06分に伊予灘の深さ78kmでM6.2の地震（最大震度5強）が発生した。この地震は、発震機構が東北東－西南西方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部で発生した。

(5) 九州地方とその周辺の地震活動（本巻「九州地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2014年3月26日17時49分に薩南諸島東方沖でM5.3の地震（最大震度3）が発生した。この地震は、南西諸島海溝（琉球海溝）の東側のフィリピン海プレート内部で発生した。発震機構（CMT解）は東北東－西南西方向に張力軸を持つ正断層型である。

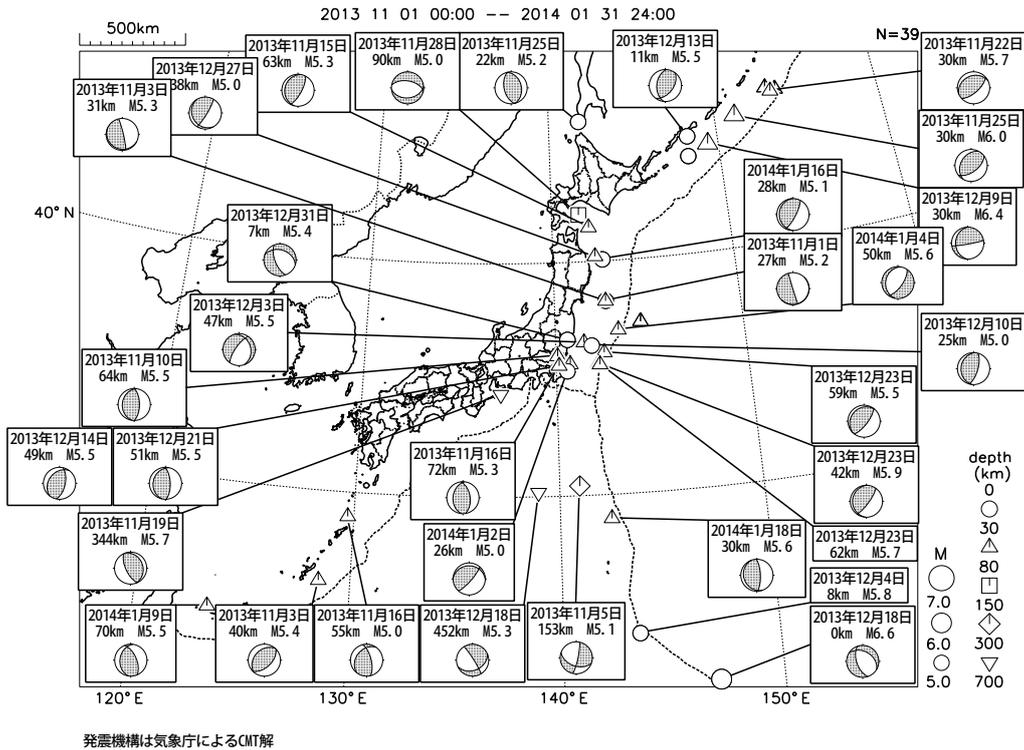
(6) 沖縄地方とその周辺の地震活動（本巻「沖縄地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2014年3月3日05時11分に沖縄本島北西沖の深さ116kmでM6.4（最大震度4）の地震が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生し、発震機構（CMT解）はフィリピン海プレートが沈み込む方向に圧力軸を持つ型である。

なお、本巻の気象庁作成資料は、特段の断りがない限り、独立行政法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、気象庁、独立行政法人産業技術総合研究所、国土地理院、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所、横浜市及び独立行政法人海洋研究開発機構、IRISの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを基に作成している。

また、東北大学の臨時観測点（夏油、岩入、鶯沢）、平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震大学合同観測グループの臨時観測点（宮古茂市）のデータを利用している。

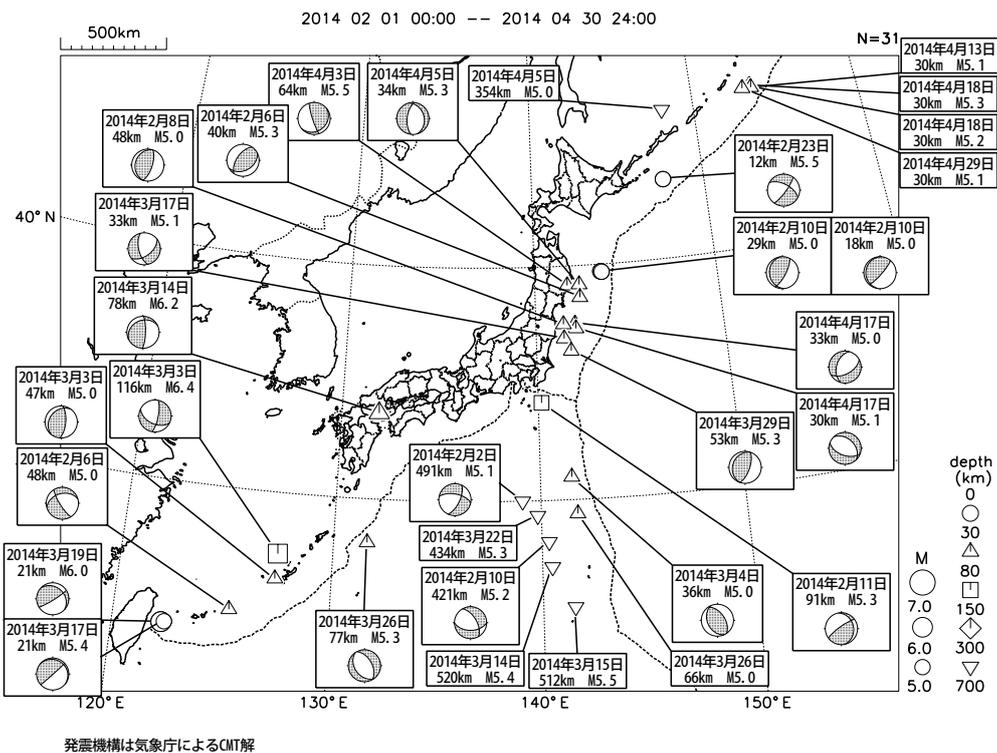
日本とその周辺の地震活動 (2013年11月~2014年1月、 $M \geq 5.0$)



第1図(a) 日本とその周辺の地震活動 (2013年11月~2014年1月, $M \geq 5.0$, 深さ ≤ 700 km) .

Fig.1(a) Seismic activity in and around Japan (November 2013 - January 2014, $M \geq 5.0$, depth ≤ 700 km).

日本とその周辺の地震活動 (2014年2月~4月、 $M \geq 5.0$)

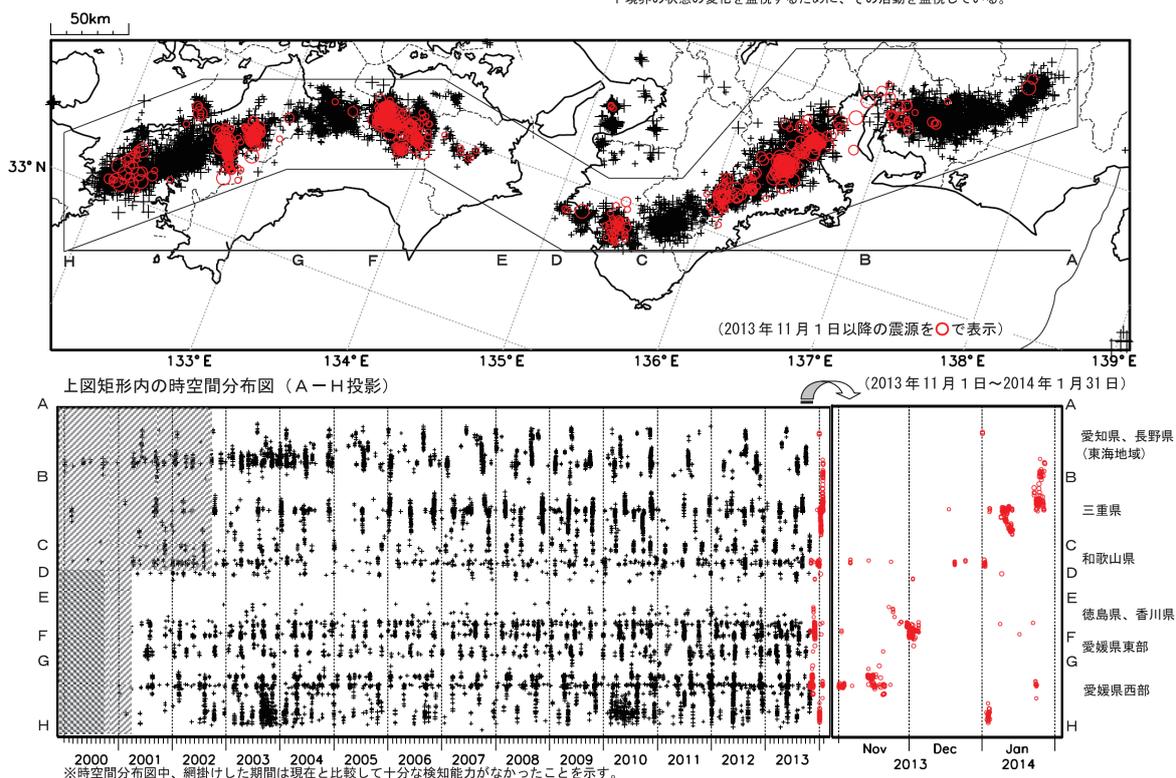


第1図(b) つづき (2014年2月~4月, $M \geq 5.0$, 深さ ≤ 700 km) .

Fig.1(b) Continued (February - April 2014, $M \geq 5.0$, depth ≤ 700 km).

深部低周波地震活動 (2000年1月1日~2014年1月31日)

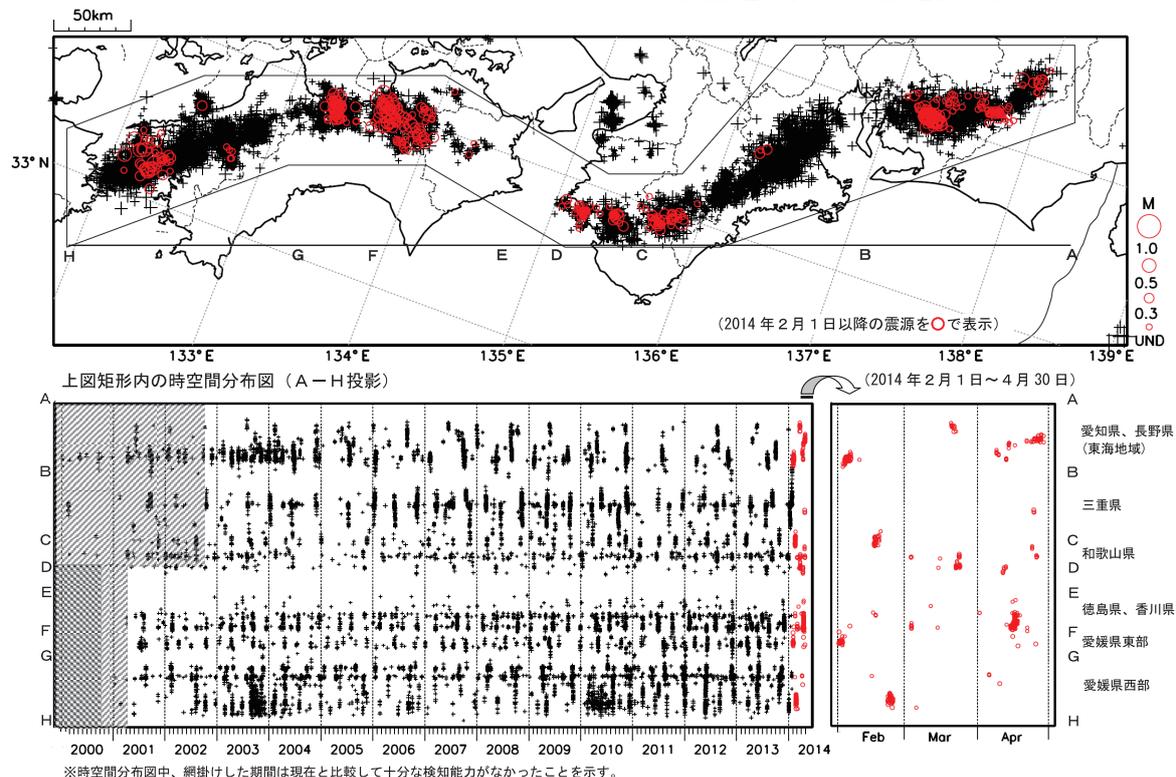
深部低周波地震は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。



第1図(c) 東海地域から豊後水道にかけての深部低周波地震活動(2000年1月~2014年1月, 深さ ≤ 60 km).
Fig.1(c) Seismic activity of Low-Frequency Events from the Tokai region to the Bungo Channel (January 2000 - January 2014, depth ≤ 60 km).

深部低周波地震活動 (2000年1月1日~2014年4月30日)

深部低周波地震は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。



第1図(d) つづき (2000年1月~2014年4月, 深さ ≤ 60 km) .
Fig.1(d) Continued (January 2000 - April 2014, depth ≤ 60 km).